

報道関係各位

2026年7月1日

アライドアーキテクト株式会社

アライドアーキテクト、ナスダック上場のDeFi Development Corp.とパートナーシップ構築

同社が運用するソラナ・バリデータで利回り獲得を目指すことを決定

AXの力で企業成長を実現するアライドアーキテクト株式会社(本社:東京都渋谷区、代表取締役会長:田中裕志、証券コード:6081、以下「当社」)は、ソラナ(Solana)を活用したオンチェーン上の資産運用について、ナスダック上場企業であるDeFi Development Corp.(Nasdaq:DFDV、本社:米国フロリダ州ボカラトン、以下「DeFi社」)とパートナーシップ構築の上で、連結子会社であるシンガポール法人Allied Verse Pte. Ltd.(所在地:シンガポール共和国、代表者:中村 壮秀、以下「アライドバース」)を通じて、DeFi社が運用するソラナのバリデータ(ブロックチェーン上の取引を検証して報酬を得る機能)を活用し、保有するSOL(ソラナブロックチェーン上のネイティブトークン)のステーキング(預け入れにより報酬を得る仕組み)によって、利回りの獲得を目指す資産運用を行うことを決定しました。

当社は、株式・債券・不動産・IPなど、あらゆる資産がオンチェーン(ブロックチェーン上に記録された状態)で24時間365日取引される時代の到来を見据え、「オンチェーン金融関連銘柄」を軸としたポートフォリオを構築する方針を掲げています。子会社のアライドバースを通じてソラナのバリデータ運用を開始する見込みであり、本取り組みはその取り組みを一段と高度化するものです。当社は、本運用を通じて得た知見を、関係する法令を遵守したうえで、企業・投資家向けのデジタル資産の導入・運用支援サービスへと展開していく構想です。

アライドアーキテクト、ナスダック上場の DeFi Development Corp.とパートナーシップ構築



同社が運用するソラナ・バリデータで
利回り獲得を目指すことを決定

■パートナー:DeFi社について

DeFi社は、SOLを蓄積・複利運用することを目的とする財務戦略を構築した、最初の米国上場企業であるとされています(DeFi社の発表に基づく)。同社は、1株あたりが裏付けるSOLの量を示す独自指標「SOL Per Share(SPS)」の最大化を経営の中核に据え、SOLの保有・ステーキングに加えて、自社でバリデータインフラを運用し

ています。

また、DeFi社は、当社が2026年4月21日に決議した第三者割当による新株式及び第24回新株予約権の割当先として、当社への出資を実施しております。両社は、この資本関係を起点として、ソラナをはじめとするオンチェーン金融領域における事業面での提携の可能性についても協議を進めております。

DeFi社は、ソラナ上のリキッド・ステーキング・トークン(以下「LST」)基盤を提供するSanctumの技術を用いて、自社が運営するバリデータに委任(ステーキング)されたSOLを表すLST「dfdvSOL」を発行しています。これにより、DeFi社はソラナ上でLSTを保有・活用する初の上場企業であるとされています(DeFi社の発表に基づく)。dfdvSOLの保有者は、SOLをステーキングしたまま流動性を維持でき、ステーキング報酬はdfdvSOLの償還価値に自動的に反映されます。

dfdvSOLは、ソラナエコシステム最大級のレンディング(貸借)プロトコルであるKaminolに統合されており、利回りの獲得や担保としての活用が可能です。当社は、子会社のアライドバースを通じて、このdfdvSOLを活用した運用を行う予定です。具体的な手法は次項をご参照ください。

■ソラナのステーキングを起点とした自社運用

バリデータ運用とは

バリデータは、ブロックチェーン上で日々発生する取引を検証することで、ネットワークの維持に貢献するノード(参加者)です。プロトコル(スマートコントラクト)にトークンをロックし、バリデータとして直接または委任を通じて参加することで、ネットワークの運営・安全性に貢献し報酬を得る仕組みは「ステーキング」と呼ばれています。

LST(リキッド・ステーキング・トークン)とは

ステーキングのためにバリデータへ預けたSOLは、ステーキングを解除するまで動かすことができません。その間、当該SOLを売買したり担保として活用したりする機会は失われ、本来得られたはずの収益機会を逃すこととなります。

この課題を解決するために生まれたのがLSTです。LSTは、ステーキング中のSOLを裏付けとして発行される「預け入れ証明書」の機能を果たすもので、ステーキング報酬を反映して価値が積み上がっていきます。利用者はSOLをステーキングしたまま、その価値をLSTという流動性のある形で保有できるため、ステーキング報酬を得ながら、同時にLSTをDeFi(分散型金融)で担保に用いるなどの二次的な運用が可能となります。本取り組みで用いる「dfdvSOL」は、DeFi社が運営するバリデータに委任されたSOLを表すLSTです。

DeFi(分散型金融)を活用したルーピング運用とは

当社は、子会社のアライドバースを通じて、DeFi社が提供するdfdvSOLを、例えばソラナ最大級のレンディング系DeFiであるKaminoで、以下のように活用します。

1. 保有するSOLをDeFi社のバリデータへステーキングし、その対価としてdfdvSOLを取得する。
2. そのdfdvSOLを担保に、利息を支払ってSOLを借り入れる。
3. 借り入れたSOLを再びステーキングに充て、新たにdfdvSOLを取得する。
4. 新たに取得したdfdvSOLを、再びKaminoで担保に用いてSOLを借り入れる。
5. 以後、3と4を繰り返す。

このように、借り入れたSOLを再度ステーキングに充ててdfdvSOLのポジションを積み増していく手法は「ルー

ピング運用」と呼ばれ、ソラナを活用した資産運用の効率を高めることが期待できます。

なお、ルーピング運用には、担保価値下落時の清算リスク、スマートコントラクトの脆弱性に起因するリスク、LST(dfvSOL)の流動性低下リスク・ベッグ乖離リスク、借入金利の変動リスク等が伴います。当社は、アライドパースのルーピング運用の実施を通して、ステーキング報酬およびDeFi活用による運用効率の向上を目指します。なお、本ルーピング運用は、関係する法令を遵守した上での、適切なリスク管理体制のもとで実施されます。

<DeFi Development Corp. 会社概要>

- ・会社名：DeFi Development Corp.(Nasdaq:DFDV)
- ・所在地：米国フロリダ州ボカラトン
- ・URL：<https://defidevcorp.com/>
- ・事業内容：ソラナ(SOL)を蓄積・複利運用するトレジャリー戦略、バリデータ運用、LST(dfvSOL)の提供等

<運用主体:Allied Verse Pte. Ltd. 会社概要>

- ・会社名：Allied Verse Pte. Ltd.
- ・代表者：中村 壮秀
- ・所在地：シンガポール共和国
- ・事業内容：デジタル資産運用事業(本取り組みに基づく運用の実施主体)
- ・資本関係：当社(アライドアーキテクト株式会社)の連結子会社

<アライドアーキテクト株式会社 会社概要>

- ・代表者：代表取締役会長 田中 裕志、取締役社長 村岡 弥真人
- ・所在地：東京都渋谷区恵比寿一丁目19-15 ウノサワ東急ビル4階
- ・URL：<https://www.aainc.co.jp>
- ・設立：2005年8月30日
- ・事業内容：マーケティングAX支援事業・資産AX事業

<アライドアーキテクト株式会社とは>

アライドアーキテクト株式会社は、従来の事業構造をAI前提で再設計するAX(AIトランスフォーメーション)を推進し、企業の持続的な成長を実現するAXカンパニーです。

AIを活用したデータ×クリエイティブでマーケティングを変革する「マーケティングAX事業」と、オンチェーン経済圏におけるAXを通じて資産価値の向上を目指す「資産AX事業」を展開しています。

2005年の創業以来、6,000社を超えるマーケティング支援実績と、UGCをはじめとする顧客の声データ資産、独自開発のSaaS・AI技術を蓄積。戦略立案からクリエイティブ、運用、開発までを担うデジタル・AI人材を結集し、自らを変革し続ける企画者・創造者の集団として、「世界中の人と企業の創造がめぐる社会」を目指して、挑み続けています。

※本リリースに記載された社名・製品名・サービス名等は、各社の商標または登録商標です。

※dfvSOLはDeFi Development Corp.がSanctumの技術を用いて提供するLSTであり、その開発・セキュリティ・運用についてアライドパースおよび当社は責任を負うものではありません。

※暗号資産の保有・運用には、価格変動リスク、担保価値下落時の清算リスク、リキッド・ステーキング・トークンの流動性低下およびベッグ乖離リスク、スマートコントラクトの脆弱性リスク、秘密鍵の管理に関するリスク、規制動向の変化に伴うリスク等が伴います。本リリースは当社グループの事業活動に関する情報提供を目的とするものであり、特定の暗号資産または暗号資産関連サービスへの参加を勧誘するものではありません。

※本取り組みに基づく運用はAllied Verse Pte. Ltd.がシンガポール共和国において行うものです。

【リリースに関するお問い合わせ先】

アライドアーキテクト株式会社 経営企画室 広報担当
TEL:03-6408-2791 MAIL:press@ainc.co.jp